

「C Iによる景気の基調判断」の基準

1. 当月C Iの前月差は一時的な要因に左右され安定しないため、3ヶ月後方移動平均と7ヶ月後方移動平均の前月差を中心に「基調」を判断する。
2. 当月C Iの変化方向（前月差の符号）が「基調」と同方向であることを前提としている。
3. 各移動平均の変化方向（前月差の符号）に加え、過去3ヶ月間の累積前月差を加味する。

《基調判断の定義と基準》

基調判断	定義	基準
改善	景気拡張の可能性が高いことを示す。	原則として3ヶ月以上連続して、3ヶ月後方移動平均が上昇した場合。
足踏み	景気拡張の動きが足踏み状態になっている可能性が高いことを示す。	3ヶ月後方移動平均の符号が変化し、1ヶ月、2ヶ月、または3ヶ月の累積で1標準偏差分以上逆方向に振れた場合。
局面変化	事後的に判定される景気の山・谷が、それ以前の数か月にあった可能性が高いことを示す。	7ヶ月後方移動平均の符号が変化し、1ヶ月、2ヶ月、または3ヶ月の累積で1標準偏差分以上逆方向に振れた場合。
悪化	景気後退の可能性が高いことを示す。	原則として3ヶ月以上連続して、3ヶ月後方移動平均が下降した場合。
下げ止まり	景気後退の動きが下げ止まっている可能性が高いことを示す。	3ヶ月後方移動平均の符号が変化し、1ヶ月、2ヶ月、または3ヶ月の累積で1標準偏差分以上逆方向に振れた場合。

* 「改善（足踏み）」又は「悪化（下げ止まり）」という基調判断に続いて、同方向の「局面変化」に該当することとなった場合、「局面変化」は適用しない。

* 景気拡張期（改善及び足踏み）から景気後退期（悪化及び下げ止まり）へ変化する際は、「局面変化」（下方）の判断を経た上で進んでいくこととする。景気後退期から景気拡張期への変化も同様とする。なお、「改善（足踏み）」から「局面変化」に移行した時点で、既に景気後退局面に入った可能性が高いことを暫定的に示している。同様に「悪化（下げ止まり）」から「局面変化」に移行した時点で、既に景気拡張局面に入った可能性が高いことを暫定的に示している。

* ~ に該当しない場合は、前月の基調判断を踏襲する。ただし、特記すべき事項があれば付記する。

* 定義の欄の「景気拡張」及び「景気後退」については、すべて暫定的なものとする。

* 正式な景気循環（景気基準日付）については、一致C Iの各採用系列から作られるヒストリカルDIに基づき、景気動向指数研究会での議論を経た後、経済社会総合研究所長が設定するものである。

一致C Iの「振幅」の目安（標準偏差）

前月差	0.86
3ヶ月後方移動平均	0.59
7ヶ月後方移動平均	0.51
12ヶ月後方移動平均	0.45

（昭和55年1月から平成20年12月まで）

（注）より分かりやすくするため、一部文言について整理を行ったが、基調判断に影響を与えるものではない（平成21年10月7日）。